

ガーナでそろばんプロジェクト 67号(2017年10月20日)

★★ パン、ときどき まちぼうけ★★

遡ること8月のそろばん教室でのこと。学校が長期休み中ということもあって補習クラスが行われている中で同時にそろばん教室を開室していたことは66号でもお伝えしました。そうした補習クラスと同時に開催していたそろばん教室には考えさせられる事も起きていました。今に始まった問題では無く、また改善されることもなく今後も起きてしまう文化や考え方の違いで起きる課題なのだと思いますが、発端となったのは練習終了後に子どもたちに与えるパンでした。補習クラスが終わると、補習クラスからそろばん教室にやってくる生徒もいる中、次のクラスまでの時間があるので、教室に通わない生徒たちは、胸元の高さまでのブロックの壁越しにガヤガヤと耳障りなほどのおしゃべりをしながら教室を覗きます。注意をすると一時おしゃべりは止むもの、またガヤガヤとそろばん教室の生徒も集中できないほど、ブロック越しの生徒のおしゃべりは雑音にしか聞こえません。その雑音の中、そろばんの練習時間が終わり、いつものようにパンを一斤子どもに手渡し、教室に通って来ている子ども分だけ分けるように伝えました。するとそろばん教室の生徒では無い子どもからそろばん教室の子どもへ向けて声がかかります。パンをちょうだい」と。すかさず、私はそろばん教室の子どもに言いました。あげてはダメ」と。自分の心の小ささを悩んでしまいましたが、働かざるもの食うべからず No work, No food」で、自ら学ばない者食うべからず No study, No food」だと思っているのです。しかし、私のこの思いはここガーナでは通用しないのです。持っている者が分け与える文化なのです。あげてはダメ」と言われたその時は「はい」と返事をするものの友だちから「ちようだい」と言われればあげてしまうのです。「あ、私が帰った後に絶対にあげているんだろなあ」と思うながら教室を出るのですが、そのモヤモヤがどうしても納まらなかった9月のそろばん教室の日は

意図してパンを買って行きませんでした。ところがこの日、補習クラスは開催されては無く学校に来ているのは、そろばん教室の生徒だけでした。今現在、そろばん教室に通って来る子どもたちは練習後のパンを目的で来ているわけでもなく、練習の合間に配られるビスケットやキャンデー、飲料水を目的で来ているわけでもありません。みんな、そろばんをやりたくて通って来ているのです。それでも私は、頑張って練習をした後のパンを子どもたちにあげたい。そうした思いがあるのに「絶対にあげていてるでしょ?」と不確かな思いから買って行かなかったのです。9月の平日のそろばん教室開催日のことです。9月のそろばん教室はこの日だけの開室でした。1時まで待っても誰一人来なかった日曜日。雨が降り続けて一時まで待っても誰一人来なかった別の日曜日。子どもたちと心が通い合わなくなってしまったのではないかと不安になりました。過去に学校側から「そろばん教室で子どもたちにパンをあげるならその分のお金を学校に寄付しなさい」と言われたことがあり、悩んだ結果、当面パンを練習の後に出さない。もちろん学校側の言いなりになって寄付をむやみにしないという決断をして切り抜けたこともありました。この時も9月の買って行かなかった時も「ごめんね。パンが買えなかったの」と伝えた時、子どもたちの返事は「はい」でした。無ければ無いでそれ以上求めたりしないのもガーナの文化なのだと思います。そろばん教室を続けて行くうえで、本当に日々悩みと課題があります。現在の悩みは、十一月に開催される「日本祭りよさこい」に、「ご褒美として誰を招待するか?過去に、デイビットとクレナムを頑張っているご褒美として招待しました。その後は、当時頑張っていたにも関わらずブラザー、ギルバードを招待することなく卒業させてしまいました。日本文化に触れるチャンス子どもたちに与えたい。それはそろばん教室に通う子どもたちへご褒美として。去年は、学校の十五周年式典とよさこいの日にちが近かった為に誰も招待しませんでした。現在、ギデオーンとコンスタントは招待を決めています。もちろん頑張っていることもありすが彼らが中学3年生だからです。その中学三年生ということを見野に入れると来て不真面目なセテムを招待した方がいいのか?セテムを招待するならばダバスのほうがふさわしいのでは?ダバスは来年に招待?などなど。悩みは尽きません。どう決断したらよいのか。まもなく答えを出さないとなりません。

協賛

トモエそろばん様

報告 TOSHIO